



# いしかわ労福協

第 495 号 2009年4月25日

発行所 石川県労働者福祉協議会  
 発行責任者 上田弘志  
 編集人 綿 征一  
 〒920-0024 金沢市西念3丁目3番5号  
 電話 (076) 231-1737  
 FAX (076) 231-1731  
<http://www.ishikawa-rofukukyo.jp>  
[info@ishikawa-rofukukyo.jp](mailto:info@ishikawa-rofukukyo.jp)  
 毎月1回 25日発行  
 定 価 一部 20円  
 昭和39年3月30日 第三種郵便物認可

## 石川労福協第7回 理事会

# 2009年度活動方針(案)等を協議



県労福協の第7回理事会が4月24日(金)、フレンドパーク石川で開かれ、2008年度決算と会計監査報告の承認や5月29日(金)に開催する「石川労福協第47回通常総会」議事案件の2009年度活動方針(案)と予算(案)、定款の一部改正(案)などについて協議した。

その他、「第6回福祉基金管理委員会」や中央労福協主催「第3回地方労福協会議」、「2009年度(平成21年度)自治体補助金等の確定」等について報告した。

### 活動の基調

1. 労働者自主福祉活動の展開  
中央、中部労福協と連携し「人とくらし、環境に優しい福祉社会の実現」にむけて、労働者自主福祉活動の充実をはかる。
2. 事業団体の基盤強化  
労福協加盟の各事業団体が相互理解と協力で事業基盤を強化し、労働者・退職者の生涯福祉の向上をめざす。
3. 政策制度要求の実現  
連合石川および推薦議員団と連携を密にし、各自治体に対し労働者福祉施策の充実を求める。
4. 地域活動、社会貢献活動の展開  
県および地域ライフ・サポートセンターの活動の輪を広め、子育て支援、福祉なんでも相談、無料職業紹介等の各事業を展開し、「暮らしの総合サポートセンター」として社会に貢献する。

活動方針(案)では、新たな活動として開始した「就業支援・無料職業紹介所・ジョブいしかわ」を軌道に乗せ「子育て支援・緊急サポート事業」を自治体等に円滑に移行し、「福祉なんでも相談」を含め『暮らしの総合サポートセンター』として地域社会に貢献する「労福協・ライフ・サポートセンター(LSC)」を目指す。

具体的な取り組みとして、県LSCは、「第7回福祉グラウンド・ゴルフ中央大会」や「第7回退職前セミナー」、「第10回研修会」、「第6回代表者会議」を開催する。地域LSCは、退職者連合、労金友の会と連携し、行事参加者の拡大を目指す。石川県勤労者互助会は、労金の各種商品の紹介やイベントの案内、労福協事業団体の紹介などを通じて、労働者福祉の輪を広げる。

また、自治体要請行動では、石川県および市町に対し福祉政策を提起し、労福協および各福祉事業団体に対する補助金等を要請することや、各事業団体の経営基盤強化のため、労福協理事会とLSC、連合



石川および連合地協、退職者連合との連携を強固なものにし、県内における労働者福祉の向上を図る。

その他、新公益法人制度移行に向け対応することや、石川県勤労者福祉文化会館(フレンドパーク石川)の運営では、諸問題をフレンドパーク運営委員会で協議し、会議室・ホールの利用増やホームページの充実を図る。国際交流では、中国蘇州市总工会との交流は、蘇州市总工会を訪問し友好関係を深める。訪問時期は今年9月の予定。また、ILO海外労働事情視察団、第41次欧州労働者福祉視察団の代表派遣も盛り込んでいる。

## 第6回労働者福祉基金管理委員会

平成20年度「第6回労働者福祉基金管理委員会」が4月15日、フレンドパーク石川で管理委員会の上田弘志委員長、鉛谷義博石川県商工労働部労働企画課長、吉田歩金沢市産業局労働政策課長、各事業団体の委員ら11名が出席して開かれた。

委員会では、平成20年度運用益3,901,675円をライフ・サポートセンターの「子育て支援」や「福祉なんでも相談」、「退職前セミナー」、「無料職業紹介所」の各事業に全額活用したことを確認。平成21年度の事業計画についても協議した。

この基金は、県内の労働者福祉運動を推進するための財政基盤を確立することを目的とし1976年10月より実施。自治体(石川県と県内全市)や事業団体(労金、全労済、住宅生協、労信協、生協連)と個人の拠出により運営しているもので、平成21年3月末で積立総額472,781,356円となった。

なお、平成22年度(平成23年3月31日)で積立総額約5億となり、基金積立目標に達する見込みである。



## 「貧困克服相談会」と「貧困のない社会をつくるシンポ」を開催

北陸クレ・サラ・ヤミ金・商工ローン対策会議主催、金沢市・連合石川・石川労福協・石川県司法書士会等が後援する「貧困克服相談会」と『貧困のない健全な市民社会をつくる』をテーマとする「シンポジウム」が4月4日(土)、金沢市本多町の歌劇座(旧観光会館) 2階大集会室で開催された。



午前中の貧困克服相談会には「派遣切り対応」「生活保護支援」「緊急小口資金」「職業安定融資」「就職支援」「労働相談」「多重債務整理」「医療相談」「生活再建相談」「その他生活相談」などをテーマに、12のブースに分かれ、労福協や連合石川、司法書士、弁護士、市生活支援課職員ら約30名が対応。約20名が相談に訪れ、緊急物資のおにぎりが配られた。

労福協は、就職支援を担当し、相談員の一明政行氏と谷内英明氏が対応。また、連合石川が労働相談を、北陸労働金庫が職業安定融資をそれぞれ担当した。なお、就職支援ブースには4名が相談に訪れた。

午後から同会場で行われたシンポジウムの冒頭、喜成清重司法書士は「貧困を無くす為にどうするかを考えていきたい。政府は貧困の存在を認めていな

貧困克服相談会



パネルディスカッション



いが、貧困の先にあるのは社会の崩壊であり、国にとっては重要な課題だ！」と挨拶。来賓の上田弘志石川労福協理事長(連合石川会長)、民主党・奥田建氏ら6名がそれぞれの立場で挨拶した。

続いて行われた「全国での貧困克服活動報告」では全国クレジット・サラ金被害者連絡協議会の本多良男事務局長が仙台市や大阪市、さいたま市など派遣村の開設計以降に行われた各地の取り組みを報告。「貧困をなくさなきゃいけないという運動が全国で広がっている」と報告した。また、中日新聞小松支局長白井康彦氏は、「貧困ゆえに多重債務となる」と述べ、各種新聞社がサラ金広告収入が多い現状を説明し「サラ金問題の記事をもっと掲載すべきだ！」と訴え、「年越し派遣村の相談活動を記事に掲載した時、大きな反響があった」と当時を振り返り、問題の重要さを強調した。

最後に、喜成司法書士を司会とし、上田理事長や本多事務局長、白井支局長らをパネラーとするパネルディスカッションを行い、「貧困解消を目指して行動することが急務」とする宣言を採択し閉会となった。

なお、シンポジウムには、連合石川から27名、労福協やLSC、労金、全労済、労信協、住宅生協、勤文協、さわやかUから13名が参加した。

ライフ・サポートセンター事務局次長 一明政行



# 勤文協 創立40周年記念号・会報30号を発刊



石川県勤労者文化協会は「会報30号」を3月30日に発行した。

会報の顔である表紙は、創立40周年に合わせ、日頃勤文協を支えている各種団体や出品者に御礼の挨拶をする大樋長左衛門会長の一場面と記念式典全体の写真を掲載し、創立40周年記念号に

相応しい表紙となった。

会報の主な内容は、谷本正憲知事や山出保金沢市長、上田弘志連合石川会長らの創立40周年に対する

お祝い文と第58回勤労者美術展で最高賞(厚生労働大臣賞)を受賞した5名の喜びに加え、中心的事業である勤労者美術展や各展覧会の紹介を掲載した。

また、書道家氷田清風先生が書道の指導を記した「自作の俳句や短歌を短冊に書いてみよう」には、書き・飾り、自らの楽しみと、来客の観賞による書の愛好家拡大を望む文章が綴られている。

その他、一般からの投稿作品も多く、見応えのある文集となった。



## 勤文協「創立40周年への思い」

石川県勤労者文化協会は4年に一度の間年にあたる1968年(昭和43年)2月29日の設立以降、日本画・洋画・書道・写真・手工芸・生花などを一堂に会した美術展や各部門毎の展覧会の他、文芸(文集)活動に取り組み40年という節目を迎えた。

一口に40周年とはいえ、改めて40年先を語るとなれば気の遠くなる歳月であり、一方、振り返れば山あり谷ありの日々であったことと推測する一人である。

しかし、諸先輩方は日本に四季があるように「冬になれば必ず春が来る」、また「雨が降れば後には晴れる」此の自然原理のもと、勤文協事業の発展に汗し、其の汗の結晶が結成40周年周年であることを一刻たりとも忘れてはならない。

戦前・戦中の軍国主義から1945年の敗戦とGHQの指導による民主主義を基本とする国家体制の下で、日本経済は大量生産・大量消費・大量廃棄という使い捨て時代へと進み、勤文協の設立当時は物質的に豊かとはいえ、1973年の第一次オイルショック、6年後の第二次オイルショックと生活物資の高騰という厳しい生活環境の克服に向けて、趣味・遊戯・旅行・衣類などの出費を控えるという情勢下で勤文協主催の各展覧会への作品の出展数を考えると、勤文協の運営は並大抵のことでは困難であったと想像する次第である。

石川県勤労者文化協会 事務局長 田上照夫

## 会報の履歴

創刊	1年のあゆみ	1969年(昭和44年)5月
2号	生活の記録	1970年(昭和45年)7月
3号	文芸コンクール俳句	1971年(昭和46年)5月
休刊期	1972年(昭和46年)~1982年(昭和58年)	
4号	勤労者美術展の発展を	1983年(昭和58年)3月
5号	故池田先生の思い出	1984年(昭和59年)3月
6号	座談会勤美展について	1985年(昭和60年)3月
7号	出品者に聞く	1986年(昭和61年)3月
8号	創作のアドバイス	1987年(昭和62年)3月
9号	創作へのすすめ	1988年(昭和63年)3月
10号	創立20周年座談会	1989年(平成元年)3月
11号	第40回勤美展	1990年(平成2年)3月
12号	余暇の上手な楽しみ	1991年(平成3年)3月
13号	環境を守るための提言	1992年(平成4年)3月
14号	余暇の過ごし方	1993年(平成5年)3月
15号	色々なことをしています	1994年(平成6年)3月
16号	心に残る作品の思い出	1995年(平成7年)3月
17号	訪中団四編	1996年(平成8年)3月
18号	環境問題を考える	1997年(平成9年)3月
19号	創立30周年座談会	1998年(平成10年)3月
20号	会報1~3号の転記	1999年(平成11年)3月
21号	勤美展第50回を迎えて	2000年(平成12年)3月
22号	勤美展50回	2001年(平成13年)3月
23号	勤文協の支部作り	2002年(平成14年)3月
24号	会報は美術・文芸の発信源	2003年(平成15年)3月
25号	会報25号記念座談会	2004年(平成16年)3月
26号	戦後60年を迎えて	2005年(平成17年)3月
27号	平和憲法の厳守を	2006年(平成18年)3月
28号	むかしと今	2007年(平成19年)3月
29号	地球の温暖化防止を	2008年(平成20年)3月

# 日中友好関係さらに前進

蘇州市总工会「第11次業務考察団」の陳惠団長ら5名が来県

石川労福協と友好交流を続けている中国蘇州市总工会の陳惠副秘書長を団長とする「第11次業務考察団」の一行5名が3月22～27日の日程で来日。金沢、東京、京都などを視察・訪問した。

1986年から蘇州市总工会との交流が始まり、互いに代表団を派遣し23年が経過。滞在中は、石川県の高本隆県商工労働部長や山出保金沢市長、北陸労働金庫石川県本部、全労済石川県本部を表敬訪問した。また、翌24日には初めて、中央労福協の笹森清会長の表敬訪問を行った。



歓迎レセプション



3月22日午後、小松空港に到着した一行に対し、24日の夜、金沢スカイホテルで歓迎レセプションが行われ、石川県や金沢市(欠)、民主党県連合会、社民党県連(欠)、労福協、連合石川、退職者連合、労金、全労済、住宅生協、労信協、生協連、勤体協、勤文協、さわやか、ライフ・サポートセンターの役職員らと親善交流を深めた。

席上、上田弘志理事長は「今回の訪問を機会に更に交流が深まり、友好関係が前進することを期待したい」と歓迎の言葉を述べ、陳惠団長が「金沢は、歴史と文化が感じられ素晴らしい」と述べた後、友好交流について「双方の友誼のために力を尽くした多くの旧友に感謝すると共に、私たち次世代の者が引き続き交流継続に努力しなければならない」

## フォトアルバム



石川県表敬訪問



金沢市表敬訪問



中央労福協表敬訪問



石川労福協表敬訪問



連合石川と意見交換



北陸労金石川県本部表敬訪問

と決意を込めて挨拶。高本隆県商工労働部長が来賓挨拶し、梅澤彰人石川労福協副理事長が乾杯の音頭をとった。



全労済石川県本部表敬訪問

引き続き、川淵尚志北陸労金理事長と奥田建民主党県連金沢総支部長がスピーチを述べた。また、梅澤副理事長を団長とする「2007年度日中友好訪中団」(2007年9月13～20日)の旅スライドを綿征一石川労福協常務理事が解説・報告した。

これに先立ち23日の午後、連合石川と意見交換会を実施。狩山久弥連合石川事務局長より、連合の組織形態や2009春季生活闘争の経過、労働安全委員会の取り組み等の説明を受け、一行からは、多くの質問が出された。また、24日の中央労福協の表敬訪問では、笹森会長より労福協の理念や春闘の歴史を詳しく学んだ。

日本滞在中は、京都嵐山の周恩来碑で献花を行った他、兼六園、金沢城、金沢市姉妹都市公園、東山茶屋街、浅草寺、皇居、琵琶湖、金閣寺、大原三千院など



# 第43回春季体育大会が開幕

石川県勤労者体育協会主催「第43回春季体育大会」のトップを切って、バレーボール大会とソフトボール大会がそれぞれ開催された。

「バレーボール大会」は4月12日、金沢市総合体育館で行われ、男子で大浦クラブ、女子で兼六ビクトリー、ママさんで三馬公民館がそれぞれ優勝した。

「ソフトボール大会」も4月12日に金沢市営専光寺ソフトボール場でA・B組が行われ、A組で金沢市従組、B組で近江町大友家が優勝した。また、4月19日に金沢市テクノパーク運動広場で行われたC組は居酒屋新が優勝した。

### 第43回勤労者春季バレーボール大会

◇男子▽予選 A 大浦ク  
 ②Bク ③新神田VC ④JA  
 SDF ⑤金沢列車区 ⑥SIG  
 WVB ①御殿MMC ②国府ク ③BL ODDSTONE ④YHKク ⑤新風  
 ▼3位決定戦 Bク2ー0国府ク  
 ▼決勝 大浦ク 2-15 1-4 0 御殿MMC  
 ◇女子▽予選 ①兼六ビクトリー ②兼六YHKク ④P  
 HOENIX ⑤V☆L ⑥富樫女子クの若草ク  
 ▼決勝 兼六(15)5-2 0 兼六ビクトリー(2)

### 第43回勤労者春季ソフトボール大会

◇A組▽予選リーグ ①サンプラザ ②金沢市従組 ③インディーズ ④日本建設、グ  
 イヤモンドカッター ⑤橋本確文堂の中川製紙 ⑧リーフレックス  
 シュ  
 ▼決勝 サンプラザ001-0 31  
 金沢市従組003-X  
 (四回時間切れ)  
 (サ)石田織田(金)高村  
 坂下▽三墨打 奥村(金)

◇B組▽予選リーグ ①球宴会 ②近江町大友家 ③ノザフ  
 ジャパン ④マンナリス ⑤フ  
 イーリース オールスターズ ⑥  
 テッカーズ ⑦名友会 ⑧ホクコ  
 ▼決勝 三馬 2-15 14-15 1 6 16-10 1  
 公民館 2 15 14 15 1 6 16 10 1  
 おしのB B

◇C組▽予選リーグ ①モ  
 ンスタIGC ②居酒屋 新  
 北陸名鉄運輸 ④錦見ライナ  
 ⑤エクストリーム ⑥TOH  
 SHIN ⑦石川トマミ運輸 ⑧  
 Kanaiwa  
 ▼決勝 居酒屋 新160-1 8  
 モンスタIGC 141-0 8  
 (谷)伊志額(中)(毛)中  
 北川(唐)津田(墨打)木屋尾

近江町大友家 71x 107  
 (二回時間切れ)  
 (球)井部 津田(吉川)近  
 野水(山田)本墨打 吉川

## 子育て支援 いしかわ緊急サポートネットワーク

### 会員募集状況／サポート状況 3月31日現在

地域センター	サポート会員	利用会員	サポート回数
すず	6	11 (+2)	26 (+3)
わじま	2	12 (+2)	9 (+2)
ななお	6	4	0 0
はくい	2	5	0 0
かほく	15	55 (+1)	105 (+1)
かなざわ	121 (-1)	346 (+17)	698 (+65)
はくさん	28	75 (+5)	103 (+4)
こまつ・のみ	18	36 (+2)	43 (+1)
かが	3	4	0 0
計	201 (-1)	548 (+29)	984 (+76)

( )は前月比。尚サポート回数は、今年度の総数

### 事務局日誌

- < 4月 >
- 2(木) 労福協第2回人事委員会 連合石川
  - 4(土) 貧困克服相談会・反貧困シンポジウム 金沢歌劇座
  - 9(日) 中部労福協第1回幹事会(～10日) 岐阜県
  - 15(水) 三県連合・労福協・労金連絡会議 北陸労金
  - 〃 2008年度労働者福祉基金管理委員会 フレンドパーク石川
  - 16(木) 労福協北陸ブロック研修会(～17日) 東京
  - 20(月) 2008年度会計決算監査 フレンドパーク石川
  - 22(水) ユニオントラベル協力委員会 フレンドパーク石川
  - 〃 いしかわ介護ボランティア第3回理事会 労済会館
  - 23(木) 労福協第3回人事委員会 連合石川
  - 24(金) 石川労福協第7回理事会 フレンドパーク石川

を観光した。  
 陳恵団長をはじめ全団員は「日本の町並みは美しい」と感動。熱烈な歓迎に感謝し、「皆さんも是非、蘇州市を訪問してほしい」と述べ、3月27日午後、関西空港を飛び立った。  
 なお、今回の全日程の通訳を第10次訪問団の時と同様、中国武漢出身で現在、金沢大学院生の劉泰丞氏が担当し、大きな力となった。

### 蘇州市総工会との交流の沿革

石川県労働者福祉協議会は1984年、中華全国総工会の受け入れにより石川県勤労者県民訪中団290名を派遣。その際、金沢市と蘇州市が友好都市である関係から蘇州市総工会を表敬訪問し、労働団体との交流を進めることとなった。  
 その後、石川県労働者福祉協議会と蘇州市総工会は、独立平等、

相互の尊重と互いの内部事務不干渉の原則のもとに1986年から互いに代表団の派遣・友好訪問を行い、友好交流はたゆまず発展し、双方の友誼は日増しに深まってきた。  
 具体的な経過としては、1988年に蘇州市総工会第1次考察団、89年に第2次、91年に第3次、93年に第4次、95年に第5次、97年に第6次、99年に第7次、2001年に第8次、2004年に第9次、2006年に第10次考察団を受け入れ、今回第11次となる。  
 また、石川県労働者福祉協議会からは86年、90年、92年、94年、96年、98年、2000年、2002年、2005年、2007年に訪中代表団を派遣してきた。  
 その他、95年6月16名と10月20名、96年に21名、98年15名、99年16名、2000年17名、2001年16名、2002年16名の訪中旅行団をそれぞれ派遣した。  
 なお、2003年の第9次考察団受け入れは、「重症急性呼吸器症候群(SARS)」の影響で2004年の3月31日から4月9日となった。

## 地域ライフ・サポートセンターだより

## 加賀 =労金部会= 事務担当者研修会

3月12日(木)14時30分より加賀労働会館で、各単組や協力団体のろうきん事務担当者15名が参加し、研修会を実施した。

講師の北陸労金大聖寺支店滝利光支店長代理が「財形年金について」(積立から受取りまでの仕組みと活用例)や「インターネット・モバイルバンキングについて」(いつでも、どこでも、安全に、割安に)など、メリットを中心に説明した。

最後に利用拡大を図るため、職場・地域での周知活動の強化を確認し、研修会を終えた。

## 錦城学園生招待ボウリング大会



3月17日(火)、百万石リゾートレーンに於いて、錦城学園生を招待しボウリング大会を実施した。

学園からの送迎と大会運営をサポートするボランティア部会の恒例行事となっているもので、今年は学園生、引率職員60名が参加。大歓声の中、楽しいひと時を過ごした。

## 第6回ソフトバレーボール大会



3月28日(土)、加賀市体育館で15チーム・120名の選手が参加し「ソフトバレーボール大会」を実施した。

3月下旬とはいえ、底冷えのする体育館では、好プレー、珍プレーで盛り上がり、大歓声の中熱気に包まれた。

結果は、優勝が加賀村田Bチーム、準優勝は大同工業、3位は加賀市役所と大同テクノ。MVPに加賀村田Bの平岡さん、ハッスル賞に大同工業の坂本さん、加賀市役所の大谷さん、大同テクノの山村さんがそれぞれ受賞した。

加賀LSC事務局長 伊藤謙次

## 輪島・穴水 第6回ボウリング大会

3月7日(土)、金沢ジャンボホールを会場に、「第6回ボウリング大会」を開催。中型バスで輪島市を午前8時頃出発。途中、河北のショッピングセンターで買い物をした後、会場に到着。

今年は、昨年の半数の28名が参加。年長は77歳、年少は7歳の小学1年生と幅の広い年齢層が、2ゲームを楽しんだ。

結果は、なんと！最年長の黒田昌弘さんが優勝！おめでとうございます。

## 第4回会長杯グラウンド・ゴルフ大会



3月21日(土)穴水陸上競技場で「第4回会長杯グラウンド・ゴルフ大会」を開催した。

当日は、風が冷たかったが、天気は上々、参加者219名は、最後まで気持ちよくプレイした。

結果は、男性の部が水口政俊さん(穴水)、女性の部は谷内ます子(穴水)がそれぞれ優勝した。

輪島・穴水LSC事務局 境 薫

## 七尾・鹿島 労済部会「研修会」

七尾・鹿島地域LSC労済部会は、3月11日(水)18時より、七尾労働会館で「労済部会研修会」を開催した。

28名の参加者は冒頭、野田昭一LSC会長と全労済の宮本均課長より挨拶を受けた後、「もしもの時の事故対応」という内容で、全労済自動車共済石川サービスセンターの寺島茂克所長よりマイカー共済について学んだ。参加者から、多くの質問が出され、実りある研修会となった。

最後に、全労済の渡村八十年理事が閉会の挨拶し研修会を終了した。

七尾・鹿島LSC事務局 高山真里

## 羽 昨 ライフプランセミナー



3月8日(日)、羽昨文化会館で羽昨地域LSC主催の「ライフプランセミナー」を開催した。

講師に谷内美穂子社会保険労務士を迎えて行われたセミナーは、山田吉博LSC会長の挨拶で始まり、谷内講師が「退職後の年金・雇用保険・医療保険制度」や「継続雇用後の年金・雇用保険制度」について実例を挙げながら分かりやすく説明した。

参加者は退職間近な勤労者9名と少人数であったが、皆早々に手続きをとらなければならないこともあり、真剣に講師の話に聞き入り、解らないところはその都度質問するなどして理解を深めた。

北陸労働金庫羽昨支店長・羽昨地域LSC事務局次長 前田俊彦

## 白山・野々市 マイカー共済「研修会」

3月2日(月)白山・野々市地域LSC労済部会は「もしもの時の事故対応」と題しマイカー共済研修会を開催した。講師の全労済自動車共済石川サービスセンターの寺島茂克所長は「交通事故は、38秒に1件発生し92分に1人死亡している」と話し、事故を起こした時の責任・事故解決の手段・現場での対応までの流れから、過失割合についてケース・スタディのいくつかを説明。30名の参加者は、免許書更新時に話を聞いているものの事故の恐ろしさや事故対応を再認識した。

また、全労済の太田敏信職員が今年1月から生まれ変わった「こくみん共済」について説明し、参加者は理解を深めた。

最後に、北村長一部会長が「お手元の、こくみん共済紹介カードをライフサポートセンター事務局へ是非、提出頂きたい」とお願いし閉会した。

白山・野々市LSC事務局次長 太田敏信